

防災教育チャレンジプラン 今年は防災で連携！

京葉工業地帯の地震防災に学校・地域の連携で立ち向かう



千葉県立姉崎高等学校

学校の位置

<http://www.google.co.jp> 2011ZENRIN

京葉
コンビナート

明神小学校

姉崎高校

姉崎中学校
姉崎東中学校

青葉台小学校

帝京大学ちば総
合医療センター

1km



本校の位置関係から予想されること

- 近隣避難所で収容しきれない避難民が集まってくる可能性がある。
- 救援物資補給のための中継基地としての可能性がある。



行政との連携をはかり連絡調整会議などの必要性がある

一時避難所としての準備が必要となる。

目指すもの



学校の危機管理

新しい危機意識

企業の危機管理

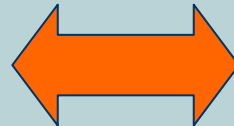


地域の危機意識

合同防災訓練



病院の危機管理



第1回防災担当者連絡会議

● 5月12日

出席者

地震防災アドバイザー 川端信正氏・姉崎37地区町会長会会長 相川宏氏・出光興産 喜多村常功氏・帝京大学ちば総合医療センター事務次長 小川伸弘氏・姉崎消防署副署長 始関廣幸氏・千葉県教育庁学校安全保健課安全室 吉田武司氏・市原市役所総務部防災課 花澤祥浩氏・市原市教育委員会学校教育部指導課防災係 野澤省吉氏・市原市役所姉崎支所長 大鐘豊氏

本校 ボランティア委員・漫画研究部

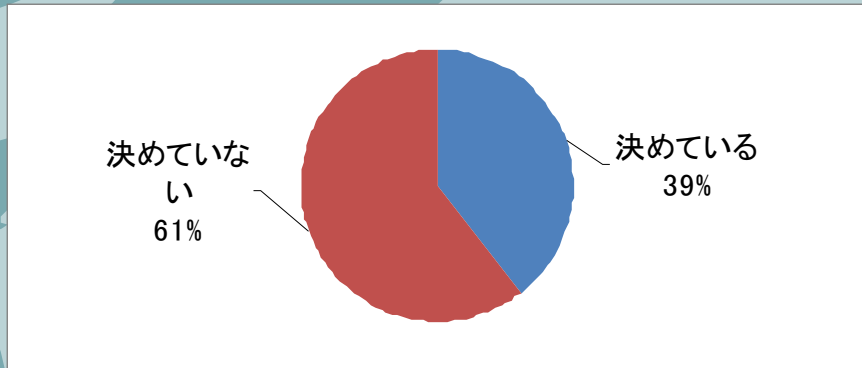


第1回防災担当者会議からのアドバイス

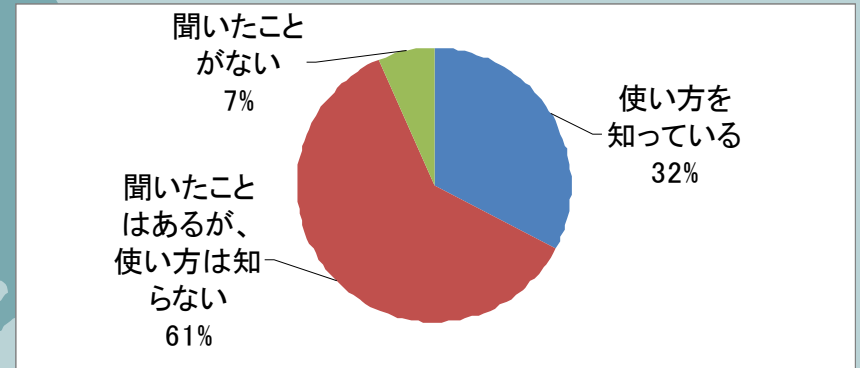
- 刻々と変化する中での防災対応。
- 手を取り合って意識を高めること。
- ライフラインの重要性。
- 行政としての役割。

防災アンケート (地域住民346名)

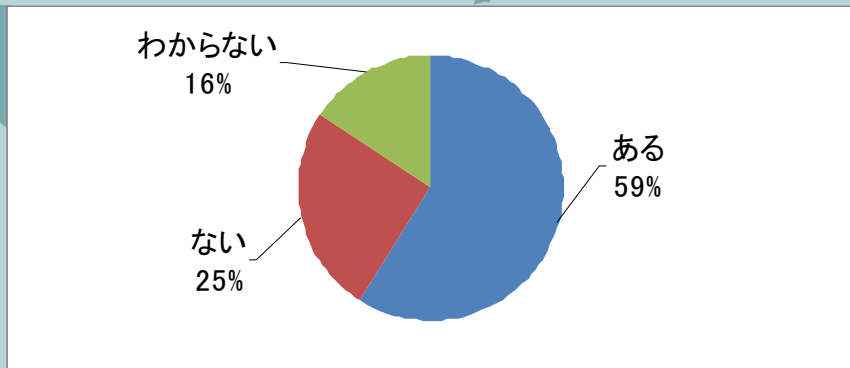
家族が離れているときに大規模災害に遭遇した場合、集合場所や連絡方法を決めていますか



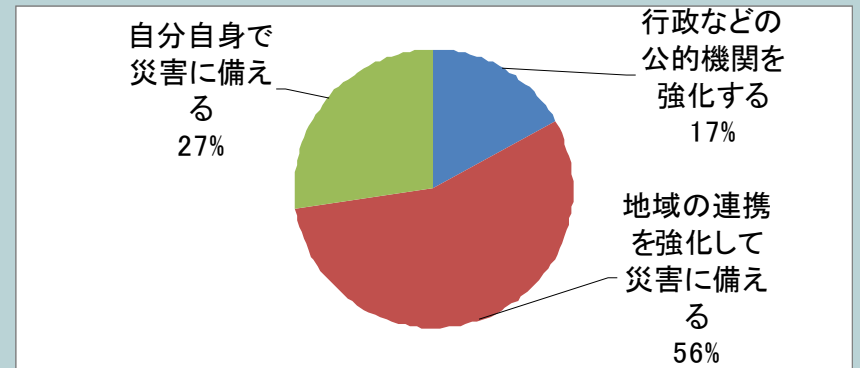
家族との連絡方法として、NTT等による災害伝言ダイヤルや携帯電話の災害伝言サービスといったものがありますが、このことを知っていますか。



あなた自身を含め、あなたの近所に普段一人暮らしの家庭はありますか。



大規模災害発生時の備えで最も大切なことは、どのようなことだと思いますか。



校内夏季避難訓練(1)



集合に要した時間 1年生5分30秒・2年生6分・3年生5分45秒

校内夏季避難訓練(2)



防災講演会

「千葉県の地震・津波災害と高校生に出来ること」

千葉科学大学 藤本准教授



非常食作り ハイゼックス



非常炊飯袋(ハイゼックス)

- 災害時に最小限の材料で炊き出しが出来る。
- 米と一緒に梅干しなどを入れて炊くと多少の保存が可能になる。
- 持ち運びが便利で、どこでも、手が汚れていても食器や箸を使わなくても食べることが出来る。
- 簡易的な懐炉代わりになる。



防災学習会

出光・西部防災センター



防災学習会

出光興産見学

- 巨大な精油所を間近にみる事が出来た。
- 様々な石油製品を手に取りみる事が出来た。
- 東京湾直下型地震に対しての備えについて学習することが出来た。

千葉県西部防災センター

- 震度7の起震体験・初期消火体験・風速30mの暴風体験・AEDを使用した心肺蘇生体験・煙道避難体験・通報シミュレーション体験等

非常食作り 釜炊き出し





防災学習会



第2回防災担当者会議

- 日本列島の地震防災に対する考え方が大きく変わった。
- 今までの概念にこだわらない防災計画が必要。
- 生徒から家庭・家庭から地域へと防災意識が広がることが望ましい。

市原市総合防災訓練



一時避難場所から本校までの避難誘導

市原市総合防災訓練



非常食作りの実演・指導


防災講演会

「高校生は大規模災害発生時に自助・共助の担い手として何ができるか」

東京災害ボランティアネットワーク事務局次長 福田 信章 氏



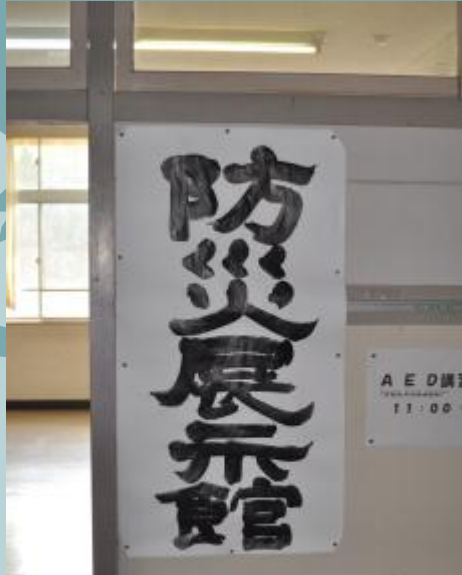
高校生に何ができるか

- 自分の命は自分で守る。
 - 顔の見える人間関係作り。(挨拶をしているか・話しかけができるか・そっと寄り添うことができるか)
- 
- 災害が起こった後に出来ることは殆どない。災害が起こる前に準備すること、やることが大切。

姉校祭 文化の部



姉高祭 文化の部



公開LHR



公開LHR



青葉台3丁目防災訓練



職員・PTAのみの参加

青葉台3丁目防災訓練



校内冬季避難訓練



集合に要した時間 1年生4分40秒・2年生5分・3年生5分27秒

校内冬季避難訓練



防災講演会 「企業における危機管理」

出光興産 喜多村 常功 氏



大企業の持つ危機管理

「日頃からの心構え」

「訓練の大切さ」

第3回防災担当者会議

防災通信

～地域との連携を深める防災教育公開事業～

千葉県立姉崎高等学校

◆校長挨拶

日ごろから、本校の教育活動にご理解・ご支援いただき誠にありがとうございます。
 □本校では、今年度、内閣府および千葉県教育委員会から防災教育の指定をいただき、研究を進めてまいりました。
 □3月の東日本大震災では、多くの方が被災されました。そのような災害時、高校生はそれぞれの地域で其の大切に取り組む手になることが期待されています。
 □この取り組みとおし、生徒に防災に関する正しい知識を学ばせ「自分の生命や安全は自分で守る」安全指針を確立し、生徒の危機回避能力や危機予知能力を育成する自らの生命を尊重する心、地域社会の構成員一人として何ができるか、其の心・意の心を育成したいと考え活動してまいりました。活動にあたり、地域の皆さん及び関係機関のご支援・ご協力をいただきましたことにより御礼申し上げます。また、今後ともご支援・ご協力を御礼申し上げます。

◆第2回防災担当者連絡会議

8月24日に本校にて開催し、地域の方々、企業の方々の皆様、消防署の方々に出席いただき、本校生徒によるプレゼンテーション資料を利用した中間報告や消防署の方からの詳しい説明や質疑応答など非常に実のある内容になりました。お忙しい中、ご出席いただき本当にありがとうございます。12月には第3回会議を開催する予定です。



◆合同防災訓練

9月4日、市東地区合同の防災訓練を行いました。地域の皆様、消防署・市東市役所・本校生徒などが参加しました。まずは、本校生徒も訓練に参加し、それぞれの地域ごとに本校に避難しました。市役所による防災放送や、炊き出し訓練も行われました。東日本大震災では千葉も大きな被害を受けました。避難訓練での経路確認も重要なものになりました。



□防災に就いて議論と勉強している様子です □地域ごとに防災が完了しました

◆文化祭

11月5日、姉崎高校文化の部が開催され、その一環として、ボランティア委員会を中心に、防災展示やAED研修会・防災DVDの上乗などを行いました。PTAの皆様にもご参加いただき、AEDの使用方法について実演的に学ぶことができました。



← AED研修の様子

◆合同訓練

12月4日に地域の合同訓練を行いました。消防署の方々の指導のもと、消火器訓練や避難トイレの設置、標識製作や炊き出し訓練を行いました。

◆防災展示

← 大震災の復興の展示です。暮らしが良くなってます
 ← 避難時のために避難グッズの準備が必須です

◆防災LHR

『ちば姉崎公開の日』の一環として各HRで防災に関する授業を行いました。避難時に必要なもののリスト作りや、災害時に高校生ができること、避難所での生活についてなど、体験できる内容が多く、生徒たちも真剣に取り組めました。



◆避難訓練

12月19日に姉崎高校にて、今年度避難訓練を行いました。全員でグラウンドに避難した後、出発員の方々に訓練をしていただき、その後、学年ごとに、消防のご協力をいただき、シェルター避難の訓練、AED研修、消火器訓練を行いました。



千葉県立姉崎高等学校 防災通信

TEL 0438-62-0801
 FAX 0438-62-0801
<http://www.d02e-c.ed.jp/~awak4/>



成 果

- 防災教育を学ぶことによって、学校だけではなく地域を巻き込んで学習する機会が出来、自助・共助の意識を持つことが出来た。
- 災害のイメージを考えることによって、高校生が主体的に関わるボランティア意識を持つことが出来た。
- 地震に関する基本的な知識や防災対策等の基礎的技術の習得が出来た。

課題

- この1年限りの計画ではなく、継続的な防災教育計画を立てる必要がある。
- 今年学習した防災に関する技術や知識を継承して広める機会を作ることが大切である。
- 防災だけではなく、今以上に地域と連携した学校作りを進める必要がある



ご静聴ありがとうございました。